

かみすげたささのおか

令和2年5月29日
上菅田笹の丘小学校
学校だより6月号

みんなで
東京2020
オリンピック・
パラリンピックを
応援しよう。



上菅田笹の丘小学校 学校教育目標
自分大好き 仲間大好き
心かがやく上菅田笹の丘小学校



「新しい日常」の創造

「アフターコロナ」への共存と共生

校長 縣利一

1月末から新型コロナウイルス感染拡大が起こり、3月には休校が開始され3か月が過ぎました。まさにコロナ禍と呼ばれる状況の中、医療従事者をはじめエッセンシャルワーカーの皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染への不安を感じながら、想像を絶する過酷な状況の中で今日まで文字通り命がけで従事していただいております。その使命感に心より敬意を表したいと思います。

4月末からの緊急事態宣言による自粛要請も一か月半に及びましたが、その甲斐あって感染者の数が減少し、5月25日には緊急事態宣言が解除され、6月から段階的に学校を再開することとなりました。しかしながら諸手を挙げて喜べる状況ではありません。油断をすればたちまち感染拡大になりかねないからです。子供たちが学校に戻ってきた喜びをかみしめながらも、校内の感染予防においては細心の注意を払っていききたいと思います。

さて、新型コロナウイルスがはやり始めたころ、コロナと戦う、コロナを封じ込めるといった言葉が使われていましたが、最近ではコロナと共存していく、コロナとうまく付き合っていくといった言葉に代わってきました。新型コロナウイルスは無くなってしまいうものではなく、予防策を講じながら感染しないように生活していくことが求められてきたのです。「アフターコロナ」、「新しい日常」という言葉とともに、感染症から身を守るために知恵を絞り、どのような生活をしていくかという発想の転換が今後の課題となりました。学校生活におきましては、感染症予防のための指導や衛生的な生活の在り方を基本として、学習や授業の進め方、給食指導・食育、集団生活における人間関係作り等を見直していきたいと思ひます。

ところで、新型コロナウイルスが気象解説に与えた影響について、気象予報士・お天気キャスターの森田正光氏は次のように語っています。

「皮肉なことですが、空気がきれいになっています。大気中のオゾンやPM2.5などの数値を分析した結果、大気汚染は昨年より少なくなり空気がきれいなんです。衛星画像でも都市部の空気が澄んでいることがわかります。」(要旨)と。

コロナ禍を通して、経済活動が停滞したことにより二酸化窒素などの有毒ガスの排出量が減り空気がきれいになることで、生物にとっては良い環境になっているということです。

また、森田氏は自然について次のようにも語っています。

「自然は本来バランスを求め、つねに“中間”“真ん中”へ向かおうとします。アンバランスを嫌いますから、変動・反動が起こるわけです。夏が極端に暑くなったり、反対に冷夏になったりするのは、地球温暖化など人間の活動によって崩されたバランスを元に戻そうとする働きと言えるのです。」(要旨)と。

経済活動の停滞は、地球温暖化の原因となっているCO2の排出量も確実に減らしていることでしょう。人間中心の利己的な生き方は結局のところ人間自身にっぺ返しがきてしまうのです。地球上のあらゆる生物と共生するためには地球環境を考えた生活をしなければならないのです。私たちはコロナ禍を通して、地球環境を考えた自分自身の生活を見直すきっかけを天から与えられたのではないのでしょうか。経済活動を停滞させないようにしながら私たちの生活を維持する「新しい日常」とは、地球生命のバランスを考えた共存と共生を行える生活の仕方を、発想の転換をもって創造していくということなのではないのでしょうか。私たち教育者の立場で置き換えるならば、子供一人ひとりがその存在を尊重され、誰もが楽しく、誰とでも仲良く、健康で学ぶことができる学校づくりということになると考えます。いよいよ子供達学校に戻ってきます。アフターコロナの「新しい学校」づくりを保護者・地域の皆様とともに創造していきたいと思ひます。